

家庭用注射針の事故防げ

いちおし
話題



県内の内科医らが統一を進めている注射針の回収容器

患者へ回収容器

県内内科医
グループ配布

ように統一を決めた。まずは会員のいる福井医科大学、県立、日赤、県済生会病院で導入。患者に渡していく。
ボトルは五百ミリリットルの大きさ。例えばペン型注射のインスリンなら、毎日二回打つ人で一カ月分の

家庭から出る注射針、採血用針の回収を徹底させようと、県内の内科医らのグループが針の回収容器を統一、各医療機関に使用を呼び掛けている。バイオハザード(感染性医療廃棄物)マークをつけている。県内の内科医や看護師、栄養士らでつくる福井糖尿病療養指導研究会がみても危険物と分かる。

が進めている。従来は各自でコーヒーなどの瓶に入れて医療機関に持ってきてもいい、回収してきただ。しかし、一般ごみと混じって捨てられるケースもあることから、だれも導入を呼び掛けている。

が針が収容できる。ボトルは繰り返し使える。「病院が変わってもそのまま使える」と炭田耕治・福井医科大学第三内科講師(画)。ほかの医療機関に

インスリン製剤濃度統一へ

注射器、種類に注意

また、ペン型ではなく、瓶に入ったインスリン製剤は濃度が異なる二種類があるため、注意を促している。現在、国内では「1ミリリットル四十単位」と「1ミリリットル百単位」の製剤がある。しかし今後、国際基準である「百単位」に切り替えられるため、同じ量でも濃度は二・五倍に

なる。「四十単位」は今年六月で生産が中止されるという。そのため「百単位」の製剤に、「四十単位」用の従来の注射器(赤い目盛り)を使用した場合、「低血糖になり、最悪死



1ミリリットル40単位のインスリン



1ミリリットル100単位のインスリン

「低血糖になり、最悪死